



第 53 号(平成 28 年 12 月 27 日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ
特別隊員

島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は次の方々に長野県の山岳地域で発生した遭難の代表的な事例を原則的に 1 週間ごとにお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。

- ◇お客様と接する登山用品店舗スタッフの方
- ◇インターネットの登山情報サイトを利用される登山者
- ◇長野県内の各地区山岳遭難防止対策協会

平成 28 年中の山岳遭難発生状況(平成 28 年 1 月 1 日～12 月 18 日)

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
平成 28 年	266	42	6	146	103	297
平成 27 年	270	57	4	131	105	297
前年同期比	-4	-15	2	15	-2	0

山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	
北 アルプス	槍穂高	64	24.1%	15		33	22	70
	後立山	51	19.2%	4	1	29	24	58
	その他	35	13.2%	3	2	20	12	37
	計	150	56.4%	22	3	82	58	165
中央アルプス	23	8.6%	3	1	13	7	24	
南アルプス	9	3.4%	1		4	5	10	
八ヶ岳連峰	25	9.4%	4	1	18	5	28	
その他の山岳	59	22.2%	12	1	29	28	70	
計	266		42	6	146	103	297	

日付	場所	年齢	性別	態様	死傷別	概要
12月15日	横岳	27	男	転落	負傷	美濃戸口から入山し、横岳付近をロープを使用して降下中、転落して負傷
		29	男	転落	負傷	
<p>15日、ハケ岳横岳付近で2名パーティーの1名が滑落する山岳遭難が発生し、滑落した27歳男性Aさんは自力で山小屋に下山し、29歳男性Bさんは、16日救助隊員が救出しました。</p>						

※年末年始 山岳遭難にご注意ください！

【参考：昨年の年末年始の山岳遭難発生状況】

(平成27年12月29日～平成28年1月3日)

遭難 **4** 件 (うち死亡 **1** 人)

～年末年始の山岳遭難発生件数は4件で、過去五年間で最も少なかった～

【遭難事例】

- 12月29日 上田市 根子岳 [長野県 男性 38歳 重傷]

スノーボードで頂上から滑走中にバランスを崩し転倒、負傷。消防防災ヘリにより救助。

- 1月1日 北アルプス 霞沢岳 [福岡県 男性 64歳 死亡]

上高地から3人パーティーで入山し、霞沢岳登頂後、K2ピーク付近でビバーク。上高地に向け下山中に心臓疾患により死亡。県警ヘリにより収容。



○ 1月1日 八ヶ岳連峰 赤岳〔神奈川県 男性31歳 重傷〕

赤岳鉱泉から美濃戸口に向け下山中、スリップして転倒、負傷。パトロール中の県警・遭対協救助隊員により救助。

○ 1月3日 八ヶ岳連峰 阿弥陀岳〔神奈川県 男性66歳 重傷〕

広河原沢において2人パーティーでアイスクライミング中、バランスを崩し滑落、負傷。県警ヘリにより救助。



※県警救助隊からのアドバイス！

【① 冬の稜線】：

冬の稜線は凍結している場合が多く、また冬型の天候が強まれば強風になり行動不能となります。入山前から現地の気象情報を収集、把握し、天候の悪化が予想される場合は、登山を控えましょう。

【② 低体温症】

冬山登山は強靱な体力と経験、技術が必要となります。

冬期の場合、疲労や強風の影響で低体温症となり死亡する危険性が高まります。低体温症は意識障害を伴うので、自分では対応が難しい場合があります。単独登山は避け、できるだけ経験者と行動しましょう。

【③ 単独登山】

冬季の単独登山は、ラッセルやルート判断を一人で行うだけでなく、体調不良や負傷、気象が急変するなどのトラブルが発生した場合はパーティを組んだ登山より、危険のリスクが高まります。

また、単独登山における行方不明事案の多くは、登山計画を家族や友人に詳しく伝えなかったことから、捜索が広範囲にわたり、発見までに多くの日数を要することがありました。

冬季の単独登山は極力控え、入山する場合は入念な準備と、登山計画の詳細を家族や友人等に必ず伝えておきましょう。

* 本通信に関する質問・意見は「長野県観光部山岳高原観光課」mt-toursim@pref.nagano.lg.jp までお寄せください。

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝